

2017年6月17日(土)に中央大学後楽園キャンパスにて開催された第4回関東支部大会は130名以上の方々にお集まり頂き大盛況のうちに終了いたしました。今回のテーマ『地球時代の感性とことばのクロスロード：文理・高大・産学のボーダーを越えて』。そのテーマのもと、グローバル人材育成に関心を持つ高校・大学教職員、企業関係者、また高校生・大学生を含む多くの参加者が集い、多角的な視座からグローバル人材育成について学び合い、意見交換を行いました。

午前中のシンポジウムでは、大会のテーマ『地球時代の感性とことばのクロスロード』にちなんで、勝又美智雄先生(国際教養大学名誉教授)のモデレーターのもと、小野博先生(本学会会長)、たなかよしこ先生(日本工業大学)、奥山則和先生(桐蔭学園)をシンポジストの皆様が、「グローバル人材育成に求められる発信力の養成と言語教育：母語と外国語教育の接点」について、英語と日本語を混ぜながら、英語だけでなく母語の日本語を学ぶことの重要性などについて熱く語られました。

午後からのシンポジウムでは、大会テーマに関連して「企業が求めるグローバル人材の感性とスキル?：文理のボーダーを超えて」というタイトルのもと、大六野耕作先生(本学会副会長、明治大学副学長)のモデレーターのもと、檀一平太氏(中央大学)、松井理人氏(日立製作所人事教育総務センター)、福島康雄氏(ソニー人事統括部)をシンポジストにお招きして、文理と産学を超えて、真に必要とされるグローバル人材についてご自身の経験などをもとにお話を頂きました。産学におけるグローバル人材育成における問題点も挙げられ、それを解決する方法などについてもご提案頂きました。午前中のシンポジウムの余韻の中、さらに熱い議論が繰り広げられました。

その後、教育連携企画による「グローバルリズム・ローカリズムの視点から見る日本～次世代が考える居心地の良い Greater Tokyo～」をタイトルにした高校生によるプレゼンテーションが行われました。事前に慶応義塾大学、中央大学、明治大学の先輩からサポートを受けながら、準備を重ねてきた高校生たち。当日は賀川洋氏(IBCパブリッシング)、森田繁雄氏(英会話イオン)、篠原麻衣子氏(クリエイティブスタッフ)、山元龍氏(English Central)のメンターからさらなるアドバイスを頂き、本番に臨みました。支部大会で最大となるカリタス女子高等学校、中央大学高等学校、中央大学杉並高等学校、中央大学附属高等学校、中央大学附属横浜高等学校、桐蔭学園高等学校男子部、明治大学付属明治高等学校の7校の生徒達が、それぞれ事前調査した結果、考察を次世代の視点から堂々と述べていました。審査員として参加して下さった Yih Yeh Pan 先生(産業能率大学)、勝又美智雄先生、Stephen Hesse 先生(中央大学)、Lars Nicolaysen 氏(ドイツ通信社日本支局)からの有益なアドバイスを受けましたが、振り返りの時間では生徒達はアドバイスを受けてさらによいプレゼンをできるように努力したいとの想いを伝えてくれました。毎回ですが、この生徒達の振り返りの時間に、この学会の意義である将来のグローバル人材を育てるための一翼を果たしているのでは実感しました。

今回はさらに大会テーマ『地球時代の感性とことばのクロスロード：文理・高大・

産学のボーダーを越えて』に関連する多岐にわたる発表もあり、各発表者のグローバル人材育成に関する取り組みに耳を傾け、発表後にも活発な議論に発展していました。私自身も関東支部大会特別公開企画「地球スタンダードを目指す理系人材のための英語プレゼンテーション・ワークショップ」にて理系大学院生向けに英語のプレゼンテーションの効果的な仕方を伝えることができました。

大会後の情報交換会にも大変多くの方が参加してくださり、午前中のシンポジウムから始まったグローバル人材育成に関する議論をさらに発展させることができました。またこの情報交換会からもグローバル人材育成に関する新たな取り組みが多くスタートしたのではと願っています。ご登壇、発表、参加してくださった皆様、展示をしてくださった企業の皆様へ御礼申し上げます。最後になりましたが、本支部大会の成功は実行委員長として指揮を取ってくださった中央大学副学長の加藤俊一先生はじめ中央大学の関係者の皆様にも心より御礼申し上げます。来年は関東支部大会も 5 周年を記念する大会となりますが、さらにご参加者の皆様にとってもグローバル人材育成について学び、語り合える貴重な場となるような素晴らしい支部大会となりますように努めて参ります。今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

グローバル人材育成教育学会関東支部長 齋藤裕紀恵（早稲田大学兼任講師）